

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 愛知県豊田市立土橋小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒471-0842 _____

愛知県豊田市土橋町6丁目117番地

E-mail s-tsuchihashi@toyota.ed.jp

Website www2.toyota.ed.jp/swas/index/php?id=s_tuchihashi

幼児児童生徒数 男子 191名 女子 173名 合計 364名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳 ~ 12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「つながる学校」を学校理念として、ESDを各教科・領域がつながる学習と捉え、ESDの実践を通して人と地域がつながる学校を目指した。

具体的には、エコガイド、省エネ博士、マイ木を柱に、①校舎のエコを発信する活動、②校舎の省エネに係わる教育、③校内の樹木に係わる学習を行った。

① 校舎のエコを発信する活動<6年生>

本校の校舎には、様々なエコに関する技術が生かされている。それらを「エコガイド」として、案内しながら、自分の考えを話し、見学者から意見を聞いてさらに考えを深めていく活動を行った。興味をもった箇所をエコガイドポイントと決め、シナリオを書いたり、もう一度データを収集したりして、より具体的に説明できるように取り組んだ。茨城県さくら市市議の方を案内したり、修学旅行で京都市立朱雀第四小学校の六年生と交流したりし、校舎の工夫やその魅力についえ伝え、学びの成果を発信することができた。

② 校舎の省エネに係わる教育〈5年生〉

学習の初めに、〈吹き矢〉の実験を通して、省エネとは「使わないこと」ではなく「有効に使うこと」であると実感し、子どもたちは強い衝撃を受けた。そこで、「トイレ」「夏を快適に過ごす工夫」「冬を快適に過ごす工夫」の3つの観点に着目し、検証実験を行った。「トイレ」では、トイレカードを利用し、節電、使いやすさ、掃除のしやすさの観点でよりよいトイレについて考えられていることを知り、設計者や先輩たちの思いや工夫に驚いた。「夏を快適に過ごす工夫」では、給気ガラリやらんまが本当に役に立っているのか比較実験を行った。「冬を快適に過ごす工夫」では、断熱材の効果や扉の効果を確認する実験を行った。それぞれの学習の中で、校舎を設計した久保さんを招き、より専門的な話や思いを聞いた。また、6年生のエコガイドにも触れ、具体的に学ぶことができた。

③ 校内の樹木に係わる学習〈4年生〉

校内の樹木を観察し、その特徴や樹木が環境とどうかかわっているかを学んだ。子どもたちは、お気に入りの木を「マイ木」とし、木々が季節によって違う姿を見せることに興味をもち、愛着をもって観察や世話をを行った。11月に行う「緑探検ウォークラリー」では、4年生が樹木に関する問題を作り、全校児童で問題を解きながら土橋の自然に親しんだ。また、開校当時の植樹にかかわった方々の思いを知ることに重きを置いた。どのような経緯でどのような思いをもって樹木が植えられたかを、関わった方から直接聞くことで、自分たちは学校からだけでなく地域からもこれらの木を任されているのだという思いをもちながら、樹木とかかわることができた。



①の写真（トイレのエコについて説明する）



②の写真（外壁のエコについて学ぶ）



③の写真（マイ木を決める）



④の写真（樹木の問題を解く）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESDカレンダーを作成し、生活科や総合的な学習の時間を中心に、ESDの視点に立った学習を構成し、実践している。1・2年生は、生活科として、身近な自然に触れる機会を増やし、感性を磨く。3・4年生は、校内の自然から課題を見つけそれを解決したり、発信したりする。5・6年生は、校舎のエコに目を向け、エコとはどういうものかを知り、環境について考える。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

6年間を通して身に付けたい力、各学年で身に付けた力を考慮したESDカレンダーを継続的に使用している。年度の初めから、このカレンダーと子どもの実態から学習を進め、年度終わりには、1年を振り返り、修正している。また、自然の中で他学年と交流し、感性を磨く緑探検ウォークラリーを全校で行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

12月に、学校評価とし保護者による評価を行った。1月に、教員による評価を行った。

年間を見通したESDカレンダーのもと、たつぷりと自然に触れあつたこと、校舎に愛着をもつたこと、自分の考えを堂々と話す力がつきたことが成果として挙げられる。ただ、エコガイドをする機会が年々減っていることが今後の課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

校内に、ESDカレンダーの足跡がわかるものを各学年掲示し、来校者に伝えられるようにしている。また、県外からの視察を6年生のエコガイドが案内したり、修学旅行で京都市立朱雀第四小学校の6年生とエコ交流をしたりした。発信により、子どもたち自身が、自分たちの実践を見つめ直す機会となった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

自然観察の森・トヨタの森のインタープリター、設計士の方々に、講師として、具体的なお話をしていただいた。3年生は、ビオトープと一緒に入り、そこに見られる生き物について一つずつ説明を聞いた。その後、メダカを守るという課題を見つけ、実践した。そこから、子どもたち自身が学んだことを発表会する機会をもち、聞いていただいた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

京都市立朱雀第四小学校の6年生と交流を行った。修学旅行で実際に訪れ、お互いの校舎について、伝え合い、感想を交流した。その後、環境について学んだことを、個々に画用紙にまとめ、交換した。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

校舎のエコを案内するエコガイドを6年生が行っている。5年生で学んだことをもとに、特に強い思いをもったところについて、来校者にガイドしながら案内している。単に、校舎の案内を目標とせず、環境問題にどう向き合っていくか、その課題に対して自分に何ができるかを考えることを大切にしてきた。環境に配慮した望ましい働きかけを地域や社会にしたいという心を育てることができた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

29年度に見直したESDカレンダーをもとに、生活科・総合的な学習を中心に進めていく。低学年で自然に触れる機会をできるだけ多く作る。その中で、友達、地域の人とつながる。中学年は、校内の自然環境を観察し、課題を見つけ、解決方法を探り、実践していく。高学年は、校舎のエコに触れ環境について自分の考えをまとめていく。